

「中村哲先生の志を次世代に継承する 九大プロジェクト」の取り組み

2023年6月22日 第70回国立大学図書館協会総会
中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト事務局
九州大学附属図書館eリソース課リポジトリ係

室井万穂・柳田朱里

応募担当者 室井万穂からのメッセージ



九州大学附属図書館の室井と申します。本プロジェクトの立ち上げ時より、これまで主に中村哲著述アーカイブの構築・管理・運営に携わって参りました。

アーカイブの設立準備段階から現在も、中村医師の支援団体であるペシャワール会さんや関係者のみなさまには、多くのご協力とともに、プロジェクトへの期待の声をお寄せいただいております、大変ありがたく存じます。個人的にも、所属や立場が異なる方々と1つのものを作っていくという、通常の図書館業務だけでは得られない体験を通して、人としても大きく成長できたと感じています。

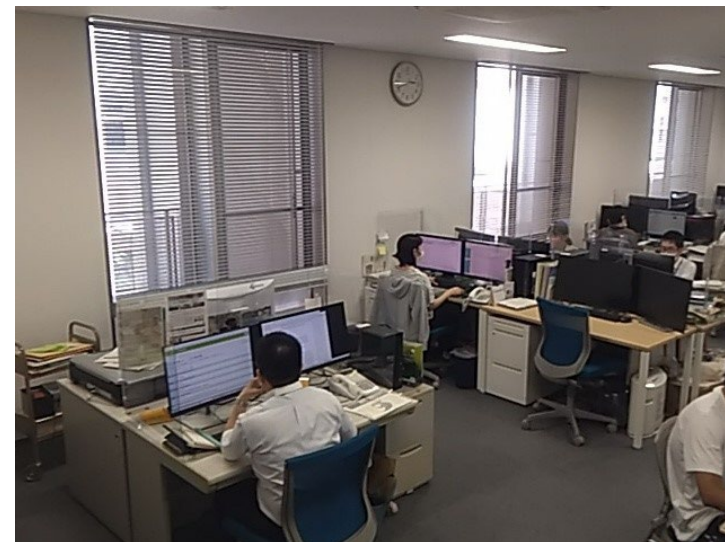
今後も、アーカイブを通して、多くの方に中村医師のことばや活動の記録に触れていただければと思います。

係の業務:九州大学の研究成果を発信

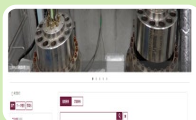


係長…1名
係員…職員2名、事務補佐2名
テクニカルスタッフ1名

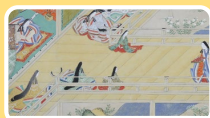
電子的保存・メタデータ作成・公開
著作権に関する処理・問合せ対応



➡九州大学学術情報リポジトリ(QIR)の運営



➡研究データ管理・公開の支援
(図書館DX支援室研究データ公開支援グループ)



➡貴重資料デジタルアーカイブの運営 (eリソース課業務)



➡中村哲著述アーカイブの構築・運営(2020年度～)

➡中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト事務局



提供)PMS/ペシャワール会

1946年 福岡県生まれ

1973年 九州大学医学部医学科卒
専門神経内科(内科・外科も…)

1984年 国際医療協力の医師としてパキスタンへ。
(ペシャワールミッション病院ハンセン病棟)

以来35年、パキスタン・アフガニスタンで、医療・水事業・農業に心血を注ぐ。

活動報告・講演・メディアへの寄稿・発言、著書を通じ、現地の経験に基づく深い思索や現地の現状を伝える。

2019年12月4日、アフガニスタンの地で亡くなる。

ペシャワール会*と現地事業体PMS*が現地事業を継続中。

*1983年発足。事務局は福岡市内。中村医師の活動を支え続けてきた募金団体であり、NGO。 *Peace (Japan) Medical Services

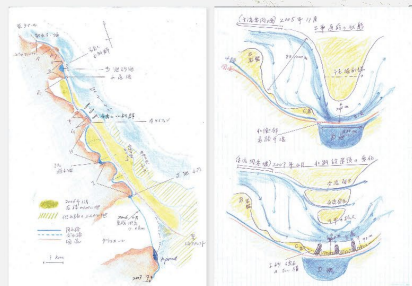
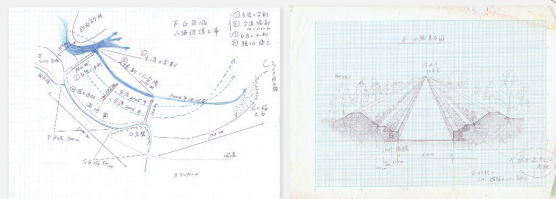
〈受賞歴〉

- 外務大臣表彰(1988)
- ラモン・マグサイサイ賞 [平和・国際理解部門](2003)
- 土木学会技術賞(2018)
[アフガニスタン・クナール川下流域の灌漑事業]
- アフガニスタン国家勲章(2018)・名誉市民権(2019)他多数

詳しくは… 中村哲医師と現地活動の足跡 をご覧ください。

4

中村哲医師による直筆図面等



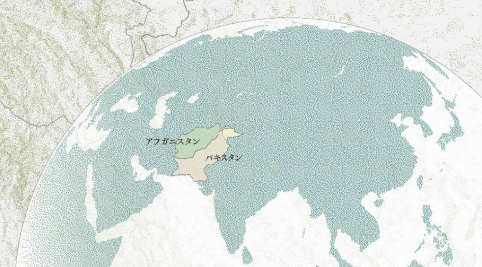
中村哲医師
メモリアル
アーカイブ
DR. NAKAMURA TETSU
MEMORIAL ARCHIVE



<https://hdl.handle.net/2324/6790278>

アフガニスタン

パキスタン



中村哲医師と現地活動の足跡

1946 9月 福岡県にて出生。福岡県立第一高等学校卒業。九州大学医学部卒業。

1978 9月 福岡県立第一高等学校卒業。九州大学医学部卒業。

1983 4月 福岡県立第一高等学校卒業。九州大学医学部卒業。

1984 9月 パキスタンのミラカン病院に赴任。

1986 4月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

1989 2月 日本赤十字社より派遣。アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

1990 9月 パキスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

1991 12月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

1992 3月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

1993 6月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

1994 9月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

1996 4月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

1998 9月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

1999 11月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2000 4月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2001 9月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2002 3月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2003 9月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2008 1月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2009 8月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2010 3月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2011 9月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2012 4月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2013 9月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2014 3月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2015 9月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2016 4月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2017 9月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2018 3月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2019 9月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

2020 3月 アフガニスタン・パキスタン国境に設置された「アフガニスタン・パキスタン国境のミラカン病院」に赴任。

中村哲医師メモリアルアーカイブリーフレット改訂版
(2023年5月、九州大学発行)



(2014年 特別主幹教授就任メッセージより 抜粋)

「仕事上、東部アフガンの地に深く関り、戦争、難民、貧困、干ばつ、民族対立など、多くの厄災を身近に見てきました。しかし、**私たちが自負してきた医療や科学技術の無力さ**をも知りました。

私たちの「知の営み」がどこに向かっているのか、感ずるところがあったのです。特に、進行中の大干ばつの対策に追われながら、**自然と人間との関わりが、今後あらゆる分野で大きな主題とならざるを得ない**と考えてきました。」

「高等研究院は、学問の分野を超え、時間と忍耐をかけ、総合的に次の時代の「知のベクトル」を紡ぎ出す、意欲的な試みだと理解しています。末席にあって、現場の実情を伝え、母校の微力になればと思っています。」

高等研究院Webページ; <https://ias.kyushu-u.ac.jp/member/pastprofessor/>

2020年 総長(当時)の発案によりスタート
「中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト」

2021年3月 ペシャワール会との相互協力協定締結





プロジェクトWebページ



https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/pj_nakamuratetsu

プロジェクト事務局:九州大学附属図書館 (学内・学外の連携・協力の連絡窓口)



展示スペース(中央図書館内)
2021年3月オープン
デザイン:芸術工学研究院
(管理運営) 利用者サービス課



デジタルアーカイブ(2021年3月公開)
パシャワール会全面協力のもと、
QIR上に構築。
(管理運営)eリソース課リポジトリ係



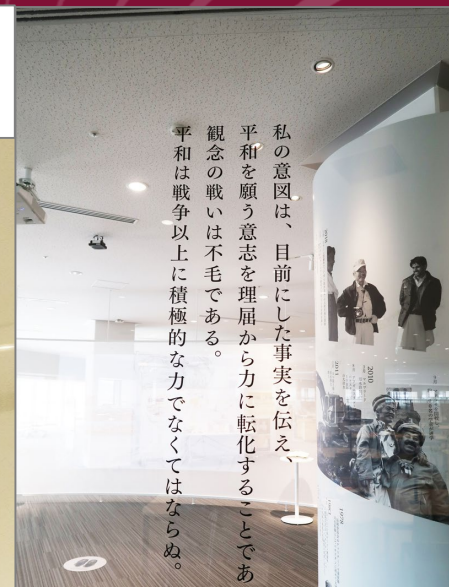
基幹教育総合科目(2021年度～)
対象:全学部の主に1年生
会場:中央図書館きゅうとコモンズ
図書館が授業運営を支援

中村哲医師メモリアルアーカイブ (2021年3月オープン)

7

中央図書館きゅうとコモンズ内。2021年度意匠学会作品賞(グラフィックデザイン)

「つなぐこと」をテーマとした展示空間。芸術工学研究院教員チームが図書館と協議しながら設計。



ガラススクリーン：
学生たちが選んだ言葉



映像：日本電波ニュース社の映像資料 × 中村哲医師の言葉
現地の人々の生活を支え続けてきた氏のはたらきを伝える。



著書・関連図書の展示

「感じたものを言葉に。考えを深めていく過程を大事に」

九州大学授業案内

中村哲、その名前を知らない人へ

授業日程

- 6/15 ガイダンス
- 6/22 講演1 村上 優 先生
(PMS総院長/ベシヤール会会長)
- 6/29 グループワーク1
- 7/6 講演2 福元 満治 先生
(図書出版石風社/ベシヤール会理事)
- 7/13 グループワーク2
- 7/20 講演3 飯嶋 秀治 先生
(九州大学大学院人間環境学研究院 准教授
/少人数セミナー「中村哲の仕事を読む」)
- 7/27 グループワーク3
- 8/3 全体発表

2022年度 夏学期

基幹教育総合科目

水曜日4限 14:50-16:20

担当教員 共創学部長 鍋木政彦先生

- ・対面を基本としますが感染状況によって変更になる可能性があります。
- ・受講希望者は4/27(木)までに履修登録を行ってください。
- ・希望者多数の場合は抽選により受講者を決定します。

アフガンにて、医療、農業、そして灌漑活動に、心血を注いでこられた中村哲医師が亡くなられた2019年から、今年で3年。中村医師の母校である九州大学では、「中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト」を立ち上げ、多くの方に中村哲医師の志に触れていただく機会を用意しております。九州大学の学生を対象とした継承活動の柱の取組みである「中村哲記念講座」には、中村哲医師の志を継承することを目的とした学生団体「哲縁会」の九大学生もTAとして参加します。中村哲医師とはどういう人だったのか、現代社会に生きる自分に何ができるのか、一緒に考えてみませんか。



(写真提供) PMS/ベシヤール会

中村哲記念講座

アジアにて、世界を、人々を考える。
私に何ができるのか？

基幹教育総合科目

全学部の主に1年生が対象

担当：鍋木政彦教授(教育担当副学長)

中央図書館きゅうとコモンズ内 対面+Zoomのハイブリッド授業
講演・グループワーク・発表：TAが進行補助、図書館がサポート



ベシヤール会 村上優会長



図書出版石風社 福元満治社長



九州大学大学院人間環境学研究院
飯嶋 秀治准教授



中村哲先生記念講座@九州大学

https://note.com/dr_nakamura

TAが記念講座の報告をnoteで発信



トップページ



<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/nakamuratetsu>



- 登録コンテンツ数 1149点
本文公開コンテンツ数 531点
(2023年5月末現在)
- 中村医師の著述や活動記録・情報等を収集、保存、デジタルデータの形で公開
- ペシャワール会と九州大学附属図書館の間でアーカイブ構築のための覚書を締結
- 九州大学学術情報リポジトリ QIR上に構築
- 6つのカテゴリ
- 様々な内容・形態の記録資料の提供
➡現在『収集・運用ガイドライン』を作成中

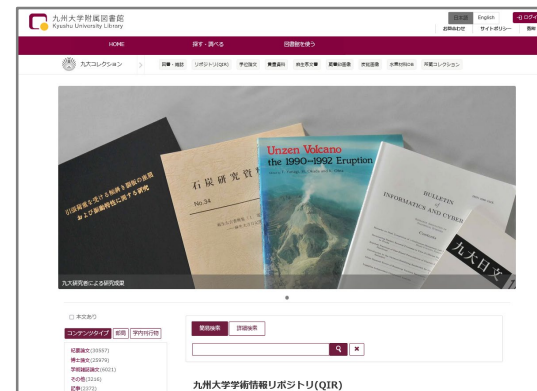
※コンテンツは複数のカテゴリに属しているため、各カテゴリの合計と登録コンテンツ数合計は必ずしも一致しない。

2006年 4月運用開始

コンテンツ登録数 55,345件 (2023年5月末現在)

E-Cats Libraryのリポジトリ機能を使用

- 配下に複数のデータベースを管理可能
- 九大コレクション(ローカルディスカバリー機能)で様々なコンテンツを蔵書とともに一括検索可能



① 九大がもつ システムの拡張性

② リポジトリ業務の 経験と蓄積



中村哲著述アーカイブ構築

- ✓ 低コスト・短期間(公開までに6か月)
- ✓ 公開プラットフォームの永続性確保
- ✓ リポジトリ上でコンテンツ一括管理

資料
受入

資料
調査

デジタル化
作業

著作権
処理

メタデータ
作成

公開

-デジタルデータのみ収集。
原資料は返却
★記録・活動資料の聞き取り調査も。

-資料の形態・物量に合わせ内製・外注を使い分ける。
◆少人数体制での効率的な電子化

-出版者等への公開可否の確認
◆通常業務の強み
★アーカイブ資料の専門家にも相談

-新しいメタデータ定義を追加
★注記・関連情報へのリンク付与によるメタデータのリッチ化

-許諾を得られたものから順に公開
-一括検索が可能。
-SNSでの資料紹介

通常のリポジトリ業務の流れ+「アーカイブ」に合わせて拡張・発展★

中村哲著述アーカイブの構造

11

トップページ

九州大学附属図書館
Kyushu University Library

中村哲著述アーカイブ
NAKAMURA TETSU DIGITAL ARCHIVE

アフガン空爆の現場で、35年に渡り医療・人道支援に心を注いでくれた中村哲氏（1946-2019）の遺著と生きた証を伝えるため、「中村哲著述アーカイブ」では、氏が生前に著した文章や集めた写真やデジタルデータの形で記録・保存し、公開します。

アフガンの問題は、世界の隅々にも問題が及ぶまま継続されたものと捉えられています。戦争事象の闇を透して、空襲への被害や全国民にわたる飢饉、大規模なメディア報道なども通じて伝えてきた結果は、戦争とは平和とは何ぞ、現代化・グローバル化した世界は何をもちたものか、後とは何か、幸せとは何か、自然の恵や現代社会を痛く批判的な視点で捉え直すことを後世に残しています。

このアーカイブが、様々な分野において活用されるように、活の活れかたの提案につなげていく、その機能性になることを願っています。

登録コンテンツ数：731件（2022年8月末現在）

中村哲著述アーカイブの検索が出来ます

キーワード

著書
現地報告・記録類
新聞・雑誌記事
講演記録
映像作品
氏について語る

カテゴリページ

新聞・雑誌記事

中村哲著述アーカイブ > 新聞・雑誌記事

中村哲氏が新聞・雑誌等に寄稿した記事や対談・インタビュー記事などを収録しています。
ペンションが所有するスクラップブックや新聞・雑誌記事データベース等から情報を収集し、掲載許可を得られたものから公開しています。
※2021年3月現在、2000年～2013年に発行された記事を中心に収録しています。

新聞記事
雑誌記事
その他

検索結果一覧

検索キーワード：(主題：中村哲～雑誌記事) (レコードセット：中村哲著述アーカイブ)

該当件数：145件

並び順： 関連度

1. ☐ 1. アフガン空爆はまだ続いている。
中村哲著述アーカイブ <4363049>

記事

出版年
2020-2022 (4)
2010-2019 (11)
2000-2009 (108)
1990-1999 (7)
1980-1989 (12)

本文言語
日本語 (142)
英語 (3)

著者
Nakamura, Tetsu (48)
中村, 哲 (48)
福元, 潔治 (7)
Fukumoto, Mitsuji (5)
中村, ひろみ (3)

主題
中村哲～雑誌記事 (143)
中村, 哲, 1946-2019 (2)

本文ファイル:
SS03-1_010.pdf [2.56MB]

ファセットによる絞込み機能

コンテンツ詳細ページ

<記事>
アフガン空爆はまだ続いている。

その他のタイトル
特別企画：平和の文化と女性

作成者
著者識別子：0000000382901920
作成者名：中村, 哲
Nakamura, Tetsu
ナカムラ, テツ

所属機関
所属機関名：ペンション会医療サービス院長

本文言語 日本語

出版者 潮出版社

発行日 2002-07-01

収録物名 潮

号 7

開始ページ 76

終了ページ 83

アクセス権 open access

権利関係 著作権及びコンテンツの利用について

カテゴリ 寄稿

注記 スクラップブック-雑誌03-010

本文ファイル

ファイル	ファイルタイプ	サイズ	閲覧回数
SS03-1_010	pdf	2.56 MB	80

九大コレクション(OPAC)

九州大学附属図書館
Kyushu University Library

九大コレクション 世界の文献 データベース 学芸 教育・研究

新型コロナウイルス感染症対応 特設ページ
現在の開館・サービス状況 / 自宅で使える電子コンテンツ

九州大学の所蔵する図書・雑誌や学術成果が出来ます

キーワード

本文PDF

アフガン空爆はまだ続いている。

アフガン空爆の現場で、35年に渡り医療・人道支援に心を注いでくれた中村哲氏（1946-2019）の遺著と生きた証を伝えるため、「中村哲著述アーカイブ」では、氏が生前に著した文章や集めた写真やデジタルデータの形で記録・保存し、公開します。

アフガン戦争と日本の行方：①永訣の朝と「無敵の正義」の行方②餓のアフガニスタン ③ペンション会・現地最新報告
中村哲著述アーカイブ <4363078>

3 総合 1版 2003年(平成15年) 11月23日 日曜日 沖縄新聞

米ヘリ機銃掃射に怒り

パシャワールから 沖縄 中村哲 ■ 9

十月、米軍のヘリコプターが、アフガニスタンのパシャワール地区に機銃掃射を行った。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。

欲しいのは水と食糧 必死に続く突貫作業

アフガニスタンのパシャワール地区で、米軍のヘリコプターが機銃掃射を行った。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。

国際正義という暴力

アフガニスタンのパシャワール地区で、米軍のヘリコプターが機銃掃射を行った。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。

- 読者層の異なる多様な刊行物に掲載された記事。
- パシャワール会保管のスクラップブックより、1点ずつ電子化 → 書誌事項調査・公開許諾申請。
- 許諾申請先(発行者)からの賛同の声と協力

一般商業誌での漫画家・小林よしのりとの対談記事『わしズム』(幻冬舎、2003)▼
<http://hdl.handle.net/2324/4370074>

今でも戦況が続くアフガニスタン。遠い国を相手にする中、アフガニスタンのために戦う人々がいる。彼らは、アフガニスタンのために戦っている。彼らは、アフガニスタンのために戦っている。彼らは、アフガニスタンのために戦っている。

中村哲

アフガニスタンのパシャワール地区で、米軍のヘリコプターが機銃掃射を行った。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。

必要とされる場所で 必要に応えられる医師に

アフガニスタンのパシャワール地区で、米軍のヘリコプターが機銃掃射を行った。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。

中村哲 vs. 小林よしのり

アフガニスタンのパシャワール地区で、米軍のヘリコプターが機銃掃射を行った。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。

アフガニスタンのパシャワール地区で、米軍のヘリコプターが機銃掃射を行った。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。この機銃掃射は、アフガニスタンの民間人を犠牲にした。



▲新聞連載記事「パシャワールから沖縄へ」
『沖縄タイムス』(沖縄タイムス社、2003)
<http://hdl.handle.net/2324/4370136>

▲医学生向け情報誌での
インタビュー記事『Medi-Wing』
(全国民主医療機関連合会、2006)
<http://hdl.handle.net/2324/4370048>



八四年、私はNGOの医師としてパキスタン・ペシャワールに赴任しました。そしてその後今日に至るまで、一七年間にわたって、パキスタンとアフガニスタンで医療活動に従事しています。ですから私の場合、九四年に突如出現し、九六年に政権をとったタリバンよりもアフガンについては古参なのです。

それにしても過去一七年間のアフガン体験で経験したことがないほど不気味な静けさだけに、これほど激しい反米感情を感じたことはありません。理由は簡単です。現地の人々にとって、今回のアメリカによる空爆は「理不尽な攻撃」以外のなにものでもない。いかにアメリカが正当化しようとも、彼らにとっては、そのように映っているのです。

報道されないアフガンの真実



● 著書一覧

● 著書本文の公開 (2022年3月～)

出版者より許諾を得た図書の本文を公開中

全文公開・・・『空爆と「復興」』★

『丸腰のボランティア』★

講演録『平和の井戸を掘る』*

診療アトラス『Hansen's Disease』*

一部公開・・・『ペシャワールにて』

『医者 井戸を掘る』『医者、用水路を拓く』等

石風社刊行の代表的な著書、

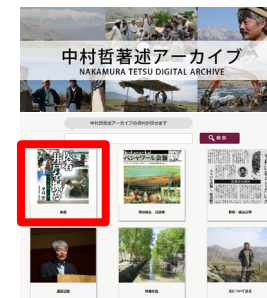
事業報告書『緑の大地計画(改訂版)』*

★ 重版未定資料

* 一般に流通していない資料

○ 中村医師の著書以外の関連図書等は…

➡中村哲医師メモリアルアーカイブ図書展示



空爆と「復興」：アフガン最前線報告(石風社、2004)

<http://hdl.handle.net/2324/4772331>

コンテンツ紹介： 現地報告・記録類

活動の記録や報告書、写真、現地活動で実際に使用された資料など
コンテンツ提供者と協力して作成

ペシャワール会報

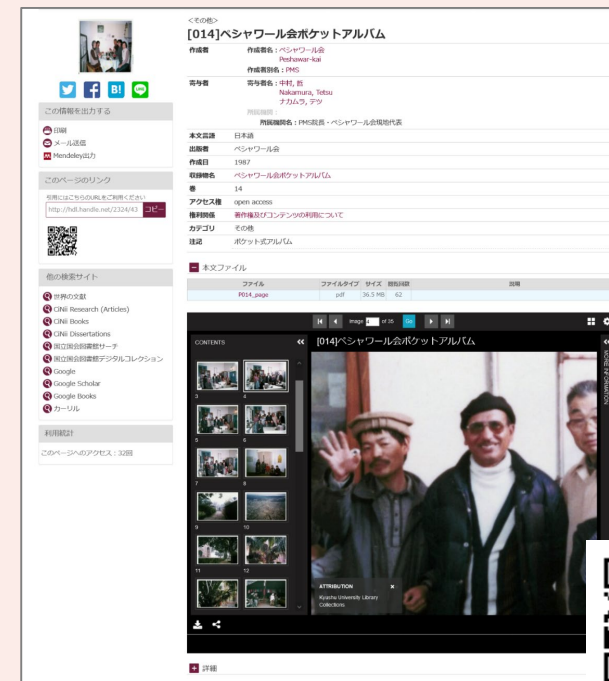
- 0号(1983年準備号)から全ての号の本文を公開中
- 目次情報から各号の記事検索が可能



ペシャワール会：中村医師のパキスタンでの医療活動を支援する会
(1983) <https://hdl.handle.net/2324/4362853>

現地の記録写真

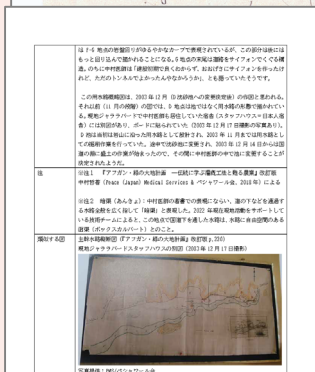
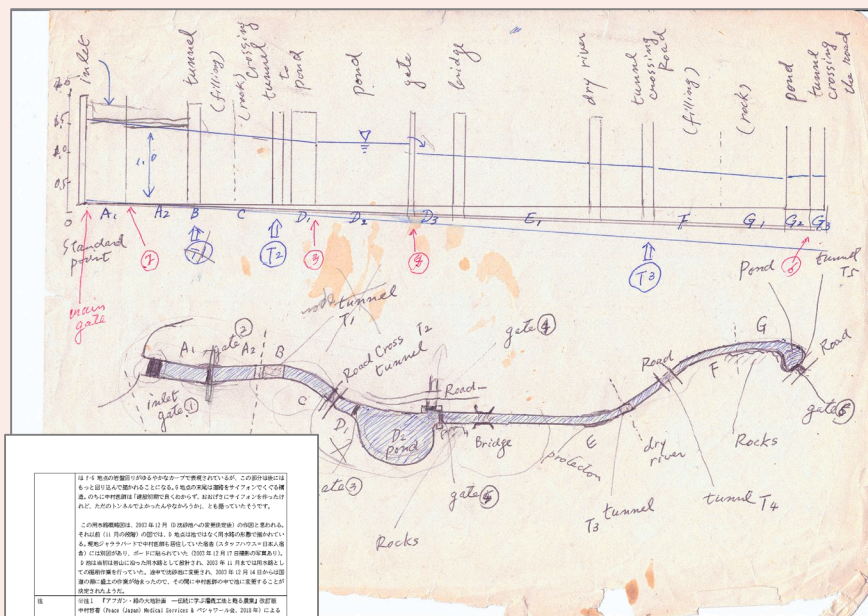
- IIIF(トリプルアイエフ)対応の写真ビューワー
- 宗教上の理由等で被写体への配慮が必要な写真には、➡マスキング処理／非公開



ペシャワール会ポケットアルバム(1987)
<http://hdl.handle.net/2324/4370996>

スケッチ

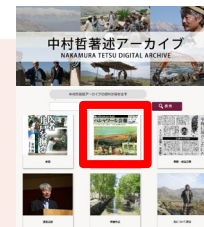
- 用水路の工事計画を説明するために中村医師が作成した直筆のスケッチ図
- ペシャワール会(PMS支援室)に聞き取りを行い、図面のメタデータと解説ノートを作成



[A-G]用水路概略図 縦断・平面図(2003)
<http://hdl.handle.net/2324/4842512>

ワーカー用の教材

- 日本人ワーカーたちのために、現地の習慣や言葉、らい根絶計画について中村医師がまとめた教材
- 2021年度記念講座のスライドより発見



I. 現地赴任ワーカーの心得

ペシャワール会(JAMS・PLS)の趣旨は毎号の会報で自ずと述べられている。心得と称するほど大袈裟なものではないが、いくつか肝に銘じておくべきことがある。

多くの人々の協力

会の働きは、3000名の国内会員、JAMS・PLSの現地スタッフを初め、官民を問わず、国内外の実に多くの機関と個人の良心的協力の集積で成立している。現地の日本人ワーカーは、水面下の氷山である支えと協力忘れてはいけない。一人では、ビザも、研修も、診療も、何一つできない。「相互扶助・分かち合い」が、会の精神かつ力の全てである。

現地を中心に

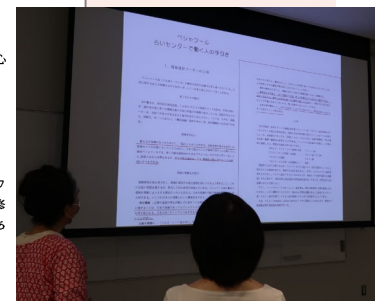
教えたり指導に行くのではなく、「協力」にゆくのである。技術水準の低さは必ずしも現地のレベルが低いということではない。日本で役立つことが現地で役立つとは限らない。過去ペシャワールでは、多くの欧米諸国がひきあげていった。その中には学ぶべきことも多く、真似てはならぬ事もあるが、多少不快な事であっても 現地を主役に立てる ことを鉄則にすべきである。

現地の習慣を大切に

現地事情を知る努力をし、現地に適用する自己表現を身につけるよう努めること。これには長い時間を要するが、努力しておれば相手は返してくれる。ペシャワール会の働きは現地を理解しようとする歴史だったとも言える。日本の常識や尺度で現地を測らぬことが大切である。いくつか日本人に理解しにくい慣習をあげると、

男女隔離：公衆の面前で男女が親しみに話すことは現地ではない。優しく異性の患者に接することは、日本で美德であってもペシャワールでは「気がある」と取られたり、変目で見られる。日本人はこのことにつまずきを与え易く、当の本人は気づいていないことが多い。

白黒を明瞭に：「イエス・ノー・知らない」をてきばきと伝え、基本的な約束は時間



ペシャワール：
らいセンターで
働く人の手引き
(1995)

<http://hdl.handle.net/2324/4488429>



講演記録

短い日本滞在期間中に
精力的に行われた講演の記録

- 講演会開催記録
- 投影用スライド
- 講演録・映像



映像作品

氏の活動を取り上げた映像作品
テレビ番組など

- 映像作品紹介 / テレビ放映記録
- 地元テレビ局よりドキュメンタリー映像3作品が提供された



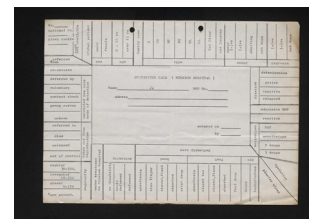
氏について語る

第三者が氏について記したもの

- 氏の学友による追悼文の寄稿
- 氏とその活動を文化人類学の視点から捉えた研究報告書
- 氏について語る座談会の記録など



▲ペシャワール会リーフレット[1992]



▲[患者登録統計用パンチカード見本]



▲カセットテープ_01[1997年録音]



今後も増えていきます。
ぜひご覧ください。



中村哲先生の
ウルドゥ語講座

ミラン研究所の授業風景。この日は水門番と地域の指導者を集め、PMSの仕事の紹介、取水庫の重要性などが強調された。一本の用水路は百の診療所へ通じるという標語は分かりやすい。スピンガル山脈方面が荒れた現在、この地域全体の関心は急速に高まっている。2018年4月16日

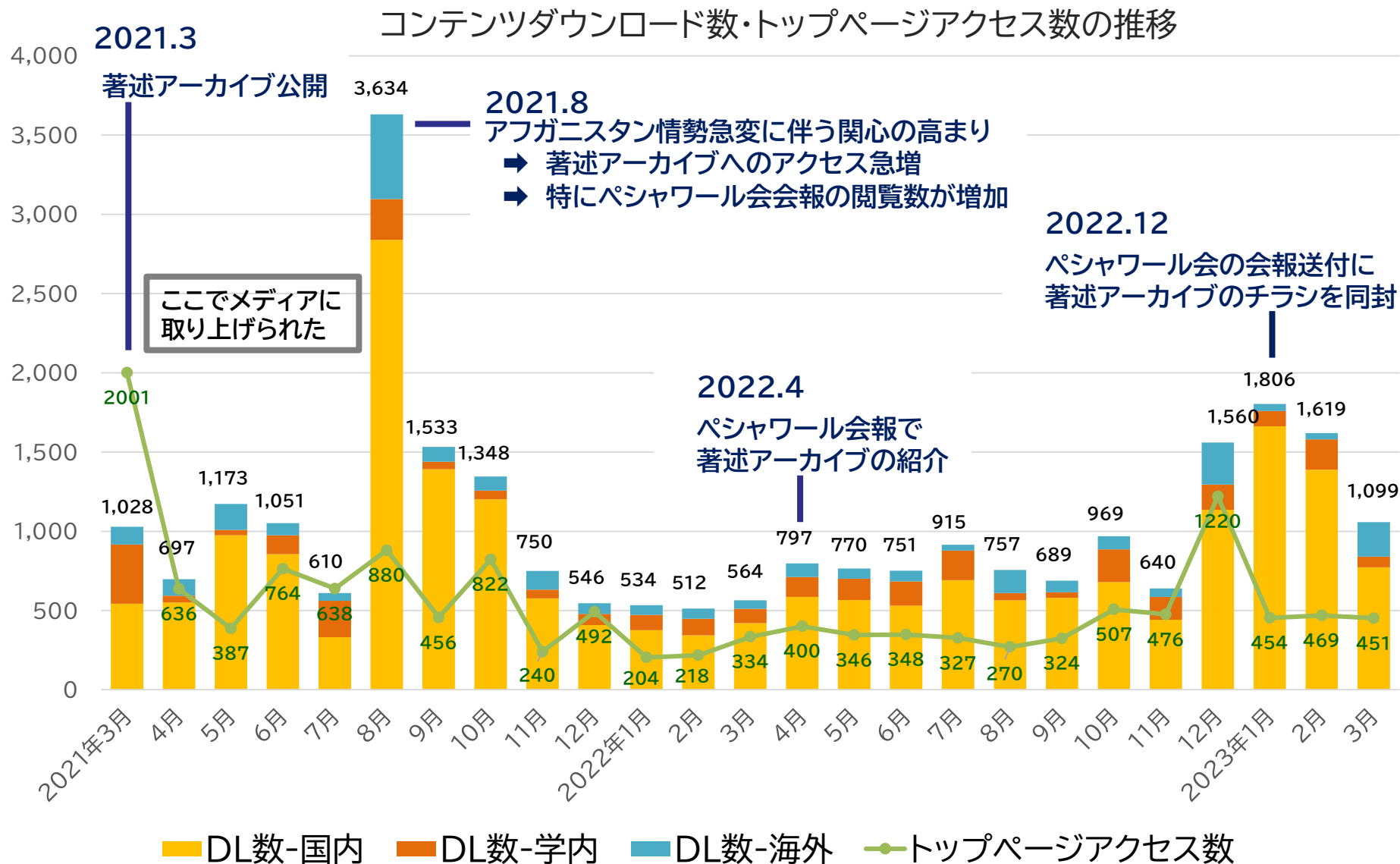


中村先生から
事務局への
週報(メール)

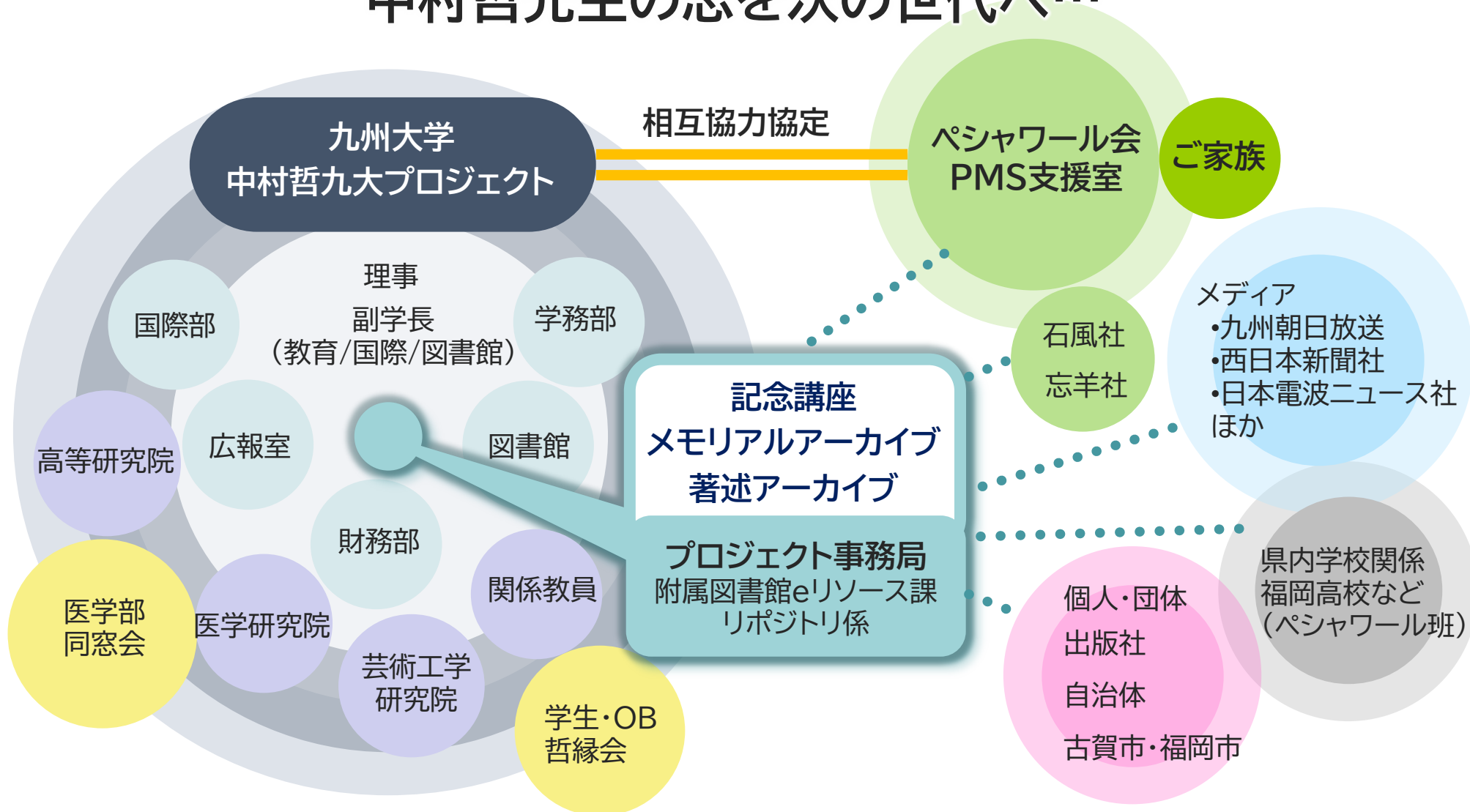


▲[2018-04-16]現地からのメール報告

<https://hdl.handle.net/2324/4372134>



中村哲先生の志を次の世代へ…



部局を越え、ゆるやかにつながる

関係者とのネットワークのHUB(ハブ)として

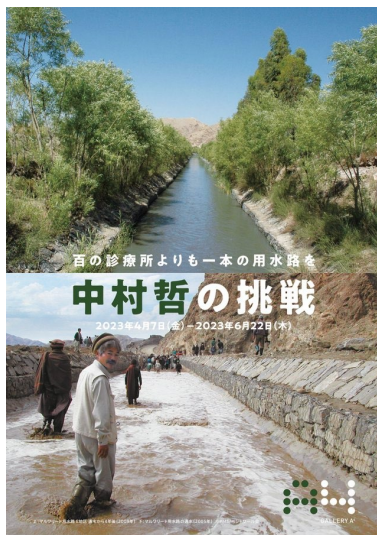


座談会「[中村哲先生のスピリットを継承する](#)」(2022.3)

パシフィック会関係者、報道関係者、学生、教職員など、約30名を集め開催(主催)。座談内容をテキスト化して公開。



九州朝日放送より、中村医師ドキュメンタリー3作品の無償提供を受ける(2023)



展示協力
(2023.4.7~6.22)
ギャラリーエークウッド;
東京、「中村哲の挑戦」展



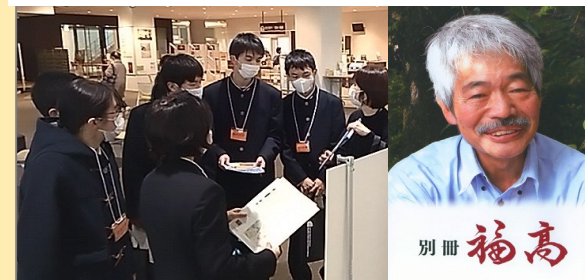
学生団体 哲縁会
記念講座・イベントで協力、情報共有
英文広報誌への学生インタビュー記事コーディネート

中村医師に関心を持つ大学生・高校生たち

学生企画の
イベントに協力



中村医師母校・福岡高校からも…



著述アーカイブの仕事から…

- 沢山の方々との関わりや寄せられた思いを知る
誠実さ・忍耐強く時間をかけて取り組む ➡ 信頼
- 機関リポジトリのもつ可能性、面白さ
- アーカイブのもつ懐の深さ
- 中村哲の言葉と仕事： 資料の中の中村先生に励まされる
➡ 中村哲の著述を実際に読んでもらいたい

「ご縁」： 学内外の方々と共に、じわじわ続けるプロジェクト…

- つくって終わりではない。取組みが次の取組みにつながっていく
- 資料が資料をつれてくる。人が人をつれてくる

大学図書館だからこそできること…

- 大学のもつ時間的・空間的スケール
- 独自のプラットフォームを持っている強み
- 大学への期待と信頼、次の世代へつなぐため託していただいている仕事

泉を涸らさない取組みを 息ながく 続けていく

1. 中村哲著述アーカイブのコンテンツの拡充： 質的充実
中村医師を支え、共に働いた方々との作業
2. 学内の新入生に知ってもらう機会(入口)をつくり続ける
3. 学術的アプローチ： 中村哲研究へ
4. 学内関係者、学外の関心を持つ方々との協力・分かち合い
5. より多くの人たちと共有できるように： 国際発信も

国立大学図書館協会賞をいただき
ありがとうございます。



「中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト」
事務局 九州大学附属図書館eリソース課リポジトリ係